

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401483		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム やすらぎⅡ		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町牛口名378-2		
自己評価作成日	令和2年8月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和2年9月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・病院併設なので急変時や事故発生時は、早急な対応と処置がとれる。 ・平日は、リハビリもできるので利用者の介護予防に繋がる。 ・季節毎の行事には、職員のアイデアが活かされている。 ・ホームの装飾品には、職員のアイデアが十分に活かされている。 ・法人内には、他部署(病棟、デイケアセンター)もあるので連携がとりやすい。 ・上記に伴い全体の行事等も企画しやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは母体医療機関の3階にあり、入居者の急な体調の変化や病状の悪化にも迅速且つ適切な治療を受けることができるため、入居者本人及び家族の安心へと繋がっている。職員はホーム玄関に掲げる「いつも笑顔を大切に、居心地の良い暖かな生活の場を提供します」の理念をもとに、入居者が精神的に安定し身体レベルや認知機能の低下を緩やかにできるよう、一人ひとりのペースに合わせた介助実践に努めている。新型コロナウイルス感染症の影響により行事や外出、地域との交流ができないなど様々な制約がある中、7月の夏祭りでは隣接する系列グループホーム入居者と一緒に的当てやスイカ割り、吾妻踊りを踊るなど、入居者が楽しいひと時を過ごせるよう支援している。また、外出できないという入居者のストレスに対しても、カルタ取り・絵描き・漢字練習・輪投げ・体操・創作・風船バレー・音楽鑑賞などホーム内でのレクリエーション活動を充実することで入居者の気分転換を図るなど、入居者本位な支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームやすらぎⅡ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が見れるような場所に事業所理念を掲示し確認ができています。日々、理念の共有に努めて実践に繋げている。	職員はホーム玄関に掲げる「いつも笑顔を大切にし、居心地の良い暖かな生活の場を提供します」の理念をもとに、入居者が居心地良く生活できるよう一人ひとりのペースに合わせた介助を心掛けるとともに、入居者の身体レベルや認知機能の低下を緩やかにし、精神的に安定した生活が送れるよう介助実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	休日は、病院周辺を散歩し近隣住民と触れ合うようにしている。時々、店に立ち寄り饅頭等の買い物をしている。行事には、地域の人達にも参加を呼びかけている。しかし、最近は、新型コロナウイルスの影響で外出や地域との交流ができていない。	新型コロナウイルス感染症の影響により様々な制限がある中、職員は入居者に楽しんでもらえるよう担当職員を決めて行事の検討や充実に力を入れている。昨年は地元中学生の職場体験受け入れや保育園児との交流、ホーム夏祭りに家族及び地域住民が参加するなど、地域との交流を深めている。7月に行った夏祭りでは入居者と隣接する系列グループホーム入居者が一緒に的当てやスイカ割り、吾妻踊りを踊るなど、入居者は楽しいひと時を過ごすことができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を面会に来られた家族様や地域の人々に伝えている。情報交換と情報共有に努めている。日々、発生する症状等も説明し理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で活動報告、入退去状況、事故報告をしそこで助言された意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員・民生委員・文化協会員・家族・職員の参加があり、それぞれの立場からの意見や要望をホームの運営に活かすようにしている。今年3月、5月、7月の運営推進会議についてはコロナ禍の状況にあることから書面会議とし、ホームの活動状況や入居者の状態など運営推進委員や家族へ郵送し報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議で島原広域の職員に活動報告と事業報告をし指導や助言の場となっている。業務や利用者様についての情報交換をし連携に取り組んでいる。行政からの指導と助言を現場で活かしている。	地域包括支援センター職員とは運営推進会議を通してホームの活動内容や入居者の状況を伝えるとともに、感染症予防や誤嚥の既往がある方の食事摂取方法に関する助言を得るなど、協力関係を築いている。要介護認定更新の折には管理者自ら市の窓口へ赴き、手続きを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、管理者および全ての職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束が必要な時は、家族様に状況を説明し書類に記入の上押印してもらい同意を得ている。毎月、実施状況を記入している。	ホームでは玄関の施錠やセンサー使用を行わず、ベッドへの鈴の設置や職員の見守りで対応するなど身体拘束をしない方針としている。入居者のケガのリスクなどやむなく拘束せざるを得ない場合には家族へ説明し同意を得、毎月拘束実施状況の記録をもとに見直しを行っており、運営推進会議においても議題として挙げ話し合っている。職員は昨年11月と今年4月の身体拘束に関する法人内研修会に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、事業所内で虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。定期的に職員間で情報交換と情報共有に努めている。利用者への声掛けには配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に交代で左記の研修に参加するように努めている。それらを業務で活かすようにしている。利用者の家族より相談があれば応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定の際は、家族様に十分な説明を行い理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関にアンケート箱を設置し家族様の意見や要望を運営に反映させている。運営推進会議の記録も置き家族に読んでもらうようにしている。疑問があれば全職員が答えるようにしている。	職員は入居者・家族の意見について普段の会話や運営推進会議、面会の際に聞くようにしている。面会の際に家族より聞き取った意見・要望は申し送りノートへ記録し、職員間で情報共有するとともに日々のケアに活かすよう努めている。年1回の家族交流会は隣接する系列グループホームと合同でレクリエーションや茶話会を開催し、意見の集約に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜、意見や提案を聞いている。定期的に実施しているグループワークにおいても聞く機会としている。	管理者は定期的に行うグループワークで職員の意見・要望を聞き取るほか、年2回法人全体での人事考課で職員の自己評価をもとに評価を行っている。また、職員との面談が必要と思われる場合には悩みや相談を聞くよう心掛け、職員間のチームワークや業務改善に努めている。尚、今年4月に隣接する系列グループホームの人員不足を受け、職員が異動となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準、労働時間は病院本部が管轄している。職場環境の整備と職員の処遇等ではできる限りの改善をお願いしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は定期的に法人内の研修を受ける機会の確保を作っている。できる限り参加するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作れてない。ネットワーク作りは部署で実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら安心を確保できる関係作りに努めている。職員間でも情報交換を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に家族が困っていること、不安なこと、要望等を聞くように努めている。それらをサービス計画書に導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。適宜、他部署との連携を図りながら個別ケアに活かすようにしている。。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場として暮らしを共にする者同士の関係を築いている。職員全員が、家庭的な空間を意識しながら業務をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全職員が本人と家族の絆を大切にしながら支援している。公正中立の関係を築くことに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた友人や場所との関係が途切れないように支援している。馴染みの人が、面会しやすい環境作りに努めている。しかし、最近は、新型コロナウイルスの感染症対策の為、思い通りの面会時間がとれていない。	職員は入居者の家族や友人が面会に訪れた際、お茶を出したり気持ちの良い挨拶を行ったりするなど、入居者や面会者に居心地良く過ごしてもらえるよう配慮している。面会簿には注意事項を貼付し、入居者の健康面や金銭面でのトラブルを未然に防ぐよう努めている。自宅への外出や外泊については家族へ協力を依頼し、入居者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。尚、現在はコロナウイルス感染症の影響により面会を制限している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員が利用者同士の関係を把握し孤立しないように支援している。一日の中で、利用者とゆっくり話す時間を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所になってもこれまでの関係性を大切にしながら相談と支援に努めフォローアップを心がけている。家族とも良好な関係を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方の希望に応じた支援に努めている。適宜、利用者と家族の要望を聞くようにしている。課題に応じた取り組みを検討している。	職員は言葉掛けに対する入居者の表情や仕草から意向を汲み取るよう努めており、意向の把握ができない場合には適宜家族に聞くなどして確認している。また、業務引き継ぎの際に入居者の状態を聞き取るほか、申し送りノートに記載された情報を読み込むことで入居者の希望や意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が各利用者の既往歴と生活歴の把握に努めている。家族が面会に来た時は会話を通して情報収集している。適宜、サービス利用の経過を報告している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の過ごし方、心身状態、残存機能を把握し支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の生活課題を考慮した介護計画を作成している。適宜、家族、必要な関係者と話し合いをしている。	管理者は計画作成担当者を兼務しており、毎月入居者の担当職員による支援経過記録や職員間でのモニタリングをもとに、ケアプランの目標に対する月末達成度を評価している。ケアプランの更新や見直しの際には入居者の望む暮らしや家族の意向を取り入れた入居者の現状に即した計画を立案しており、ホーム利用料の支払いで家族が訪れた際に計画への同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と介護日誌をもとに職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。日々の気づきや工夫も考慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われずに柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。その都度、職員間で情報共有している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設なので急変時は適切な医療を受けられる。臨時薬を処方してもらっている。又、毎月、主治医に定時薬の処方をしてもらい適切な治療をしてもらっている。	全ての入居者が同じ建物内にある母体医療機関をかかりつけ医としており、急な体調の変化や病状の悪化にも迅速且つ適切な治療を受けることができるため、入居者本人及び家族の安心へと繋がっている。受診の際には入居者の情報や病状を記載した記録を持参し、主治医へ伝えている。他科への受診に関しては家族が対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、病院の医療連携看護師が訪問し利用者の健康状態に関して職員の情報や気づきに適切な指導、助言をしてくれる。適宜、受診や対応策を促し支援してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した時は、外来看護師と病棟看護師と連携して情報交換に努めている。スムーズに入退院支援ができるようにしている。家族にも連絡し早急に病棟に来てもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期は、病棟に入院となる為、入所時の早い段階で家族に詳細を説明している。事前に説明しておくことで周知徹底に努めている。	ホームでは入居の際、入居者本人及び家族へ重度化や看取りの際には母体医療機関への入院となる旨のホームの方針を説明し、同意を得ている。入居者が重度化した場合には家族・医師・看護師・職員の間で話し合い意向を確認している。入院は医師が判断した後であるが、それまでは週1回の医療連携看護師による入居者の体調確認で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時のため職員は、緊急対応マニュアルのもと実践力を身につけている。他部署との連携も構築している。職員間でも情報共有に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に防火管理者の指導のもと避難訓練と防災訓練を実施している。地域との協力体制が築けていない。消防署との連携はとれている。	避難訓練は昼夜火災想定で消防署立ち会いのもと実施しており、地震による火災を想定した自主防災訓練などいずれも法人合同で開催している。防火管理者は毎月法人内で開催する自衛消防隊会議に参加し、他職員にも口頭で伝達している。ホームでは職員の勤務体制に応じて消火・避難・夜間防火責任者・書類の役割分担を決め、リビングの勤務体制ボードに掲示することで職員が役割分担を把握しやすいよう工夫している。	自動火災通報装置の登録先が消防署のみとなっている。有事の際の早急な対応に繋げるためにも、例えば母体医療機関や系列事業所を追加するなど、登録先追加の検討が望まれる。また、緊急時に備えて入居者情報をまとめた一覧を作成しているが、避難先で本人であることを確認できるよう、例えば入居者の日頃の生活手段(独歩や杖使用など)が分かる写真などの情報や、既往歴、保険情報等を添付するなど、有事の際に備えた更なる取り組みが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、全職員が、一人一人の人格を尊重した言葉掛けに努めている。	職員は入居者のトイレ誘導の際、耳元での優しい声掛けやその方の尊厳やプライバシーを損ねない言葉掛けに留意しており、一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。また、法人内で開催する接遇マナー研修会に参加し、尊厳についての理解を深めた上で日々の支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、本人が自己決定できるような声かけを心がけている。認知症の利用者が殆どなので職員間でも情報交換しながらニーズの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、各々のペースを大切にし希望に沿って支援している。職員間で情報交換しながら希望の把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各々に合った身だしなみとおしゃれができるように支援している。自分でできる方にはしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には食器拭きや洗濯物たたみ等のお手伝いをしてもらっている。	献立は母体医療機関の栄養士が作成し、職員がアレンジを加えて調理し、入居者の状態に合わせた食事形態を考慮し提供している。職員は手づくりのおやつを作る際、できる方にはケーキデコレーションや饅頭を丸めてもらうほか、食器拭きを手伝ってもらうなど、入居者の残存能力を生かす支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の状態に応じた摂取量と水分量を確保できるように支援している。習慣に応じた取り組みも考慮している。お菓子等も活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。本人の能力に応じたケアを実践している。できない利用者には、職員が各利用者の状態に応じた支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援、残存機能を考慮し各々に合った支援を行っている。場合によって家族の許可を得てオムツ等を購入し対応している。	職員は入居者一人ひとりの排泄チェック表を記録し、定時誘導することでトイレで排泄できるよう支援している。夜間はポータブルトイレを使用し、定時での誘導や入居者の起居動作による鈴の音で対応するなど、その方の安眠を妨害しないよう配慮している。尿取りパットやオムツについては家族の許可を得て入居者個々に応じたサイズを購入している。また、入浴日以外のトイレ介助の際に陰部清拭を行うことで、衛生面に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者は、乳製品を飲んでいる。医療連携看護師と連携して下剤の服用を検討し必要な方には服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は各々、2回/W以上実施している。バイタルチェックに応じて無理なく個々に沿った支援をしている。	ホームでは入居者が週2回は入浴できるよう支援しており、入浴を楽しめるよう菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた工夫を行っている。重度の方についてはケガなどのリスクに配慮してシャワー浴で対応しており、皮膚疾患のある方に関しては入浴後に処方薬を塗布し、保清に努めている。入浴拒否のある方については無理強いしないよう翌日に入浴できるよう対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々が安心して気持ちよく眠れるように支援している。認知症の症状にて眠前薬を使用している利用者もいる。外来のDr、医療連携看護師と情報交換しながら用途に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理している。誤薬等がないように全職員が気がけている。その都度、症状の変化等は、職員間で情報共有している。医療連携看護師にもその都度、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かした役割、楽しみごとや気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もありドライブ、散歩、買い物は十分にできていない。	職員は天気の良い日には入居者の希望に応じて近隣商店へ車椅子で出掛けたり、歩いて戸外に出掛けたりするなど、外出支援に取り組んでいる。昨年5月には手づくり弁当を持参し公園へドライブすることができている。現在はコロナ禍の状況にあるため外出が困難であるが、ホーム内でのレクリエーション活動を充実することで入居者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、会社の方針にて家族様が管理している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる方には各々に合った支援をしている。手紙と年賀状等も記入してもらっている。利用者には、日頃から漢字の書き取り練習をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間であるリビングには、職員間で話し合い生活感や季節感を取り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	建物3階にあるホーム玄関には観葉植物が飾られ、廊下の手すりや浴室前のスロープなど、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。ホームのリビング兼ダイニングは広々としており、調理する食事の匂いや音を感じられる家庭的な雰囲気である。食後にはリビングソファでテレビを観ながら寛ぐ入居者の姿が見受けられ、居心地良く過ごしていることが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも一人で過ごせたり気の合った者同士で過ごせるような環境作りに努めている。利用者が座る配置も考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れたものや好みの物を持ってきてもらいホームで使用している。	居室にはあらかじめベッドや整理箆等を備え付けており、空調管理も適宜行っている。ホームでは入居時に入居者本人・家族と相談し、掛け時計や鏡、テレビ、家族の写真、手紙など本人が自宅で使用していた手回り品を持ち込んでもらうことで、居心地良く過ごしてもらえよう支援している。居室の窓から黄金色の稲穂の絨毯が見渡せるなど、穏やかに過ごせる空間となっている。	居室に置いているポータブルトイレについて、昼間に使用しない場合や本人の使い勝手を考慮した上で必要に応じて目隠しまたは収納することが望ましい。また、尿取りパットが整理箆の上に置いてあった居室が見受けられたので、収納方法を検討し入居者が居心地良く暮らせる居室の環境づくりに配慮するとともに、職員それぞれが意識し取り組むことが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、廊下に手すりや浴室前にスロープが設置されており安全に自立した生活が送れるように整備している。転倒予防等も考慮し職員間でも適宜、情報交換に努めている。		